

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和8年5月22日(金)

明日は運動会

いよいよ運動会の本番ですね。毎年、天候が気になる運動会です。「この数日、ネットの天気予報」の「らめつ」が続いていますが、明日は晴でしょうね。子ども達の強い思いが太陽に伝わったのでしょうか。

運動会の全体練習を眺めながら、本校ならではの思ふ場面が幾つもありました。児童数が少ないために、学年間の距離が近いのです。その結果、上学年の子でも達が下学年の子でも達の面倒をよく見るのですね。見ていて微笑ましく思いますが、こういった力が協働性を育てていくのにも思いました。また、一人一人の「思い」がダイレクトに周囲に伝わることも、それが集団全体を盛り上げていく、モチベーションアップにつながるという、好循環を生み出していると思えます。府本小学校は全児童の1名ですが、そう思えないほどの声量で校歌や運動会の歌を歌います。そしてそんな、生懸命の姿が周囲の人達に感動を与えています。

1年生にとっては小学校で初めての運動会、6年生にとっては小学校最後の運動会となります。それぞれの学年で掛け替えのない思い出ができるでしょう。私はこころは、運動会の大会委員長ではありますが、それよりも重要な任務があります。写真撮影です。6年生の卒業アルバムを意識しながら全児童の写真を撮っていきます。府本小学校は児童数が少ない分、卒業アルバムの代金が高くなるのですね。それなら、趣味と実益を兼ねて私がカメラマンとして動き回る予定です。多分、殆ど本部署にはいません。頑張ります！



シリーズ「自分を語る」#09

水俣の学びでは、多くの研修員がその取組に感嘆していました。自国の環境問題への取組に活かすことができると、口々に意欲を語っていました。「3月の分科 3 R (リデュース、リユース、リサイクル) について取り組んでみたい」という声も聞かれました。

さて、次は長崎への研修旅行です。研修旅行と言っても内容は視察研修ですが、視察先は、平和祈念公園、原爆資料館、大浦天主堂、クラバー園、佐賀県立宇宙科学館です。これを1日で私の自家用車で巡ることにしました。メインは原爆資料館です。朝の9時30分、大江の宿舎に集合して出発。留学生は他の研修と重なっていたため、研修員として1人で実施するのですから、移動中、食事もマイペースに済ませました。「中国語の通訳、私の80名で出発です。熊本中を出発して、一路長崎港へ。通常の日の行程を1日で実施するのですから、移動中、食事もマイペースに済ませました。研修員達も、何故か口々に「これも日本の思い」と言っていました。中国の研修員は「あ、中国語が上手だね、国によって地味に座る人も違うのが面白かったです。」

フェリーに乗り換え、先ず向かったのは平和祈念公園です。平和祈念公園では訪外国の観光客との交流も行いました。更に、自国から贈られた平和を祈念するコメントを探しては、大喜びしていました。そこから徒歩で原爆資料館へ向かいます。私は原爆資料館の展示内容が今日の最大の学びと予想していました。

原爆資料館に入り、研修員の顔色はそれまでの観光モードから一変、真剣な表情に変わりました。全てに英語、韓国語、中国語表示があり、更に、他の国向けのパンフレットまで準備されています。我々が伝えたいことをメッセージとしてまとめられています。6名の研修員にしっかりと伝わっていました。見学後、原爆資料館から出てきた研修員は、一様に少し疲れた、いやれたといったような問題を直視し、真剣に思考しているという表情でした。後の研修報告には、すべての研修員が長崎での学びに触れていました。ヘルパーの研修員は「このように述べています。」

「色々な写真やビデオを見て、とても悲しく涙が出てきました。今でも忘れられることができません。一度このような悲しい出来事が起きてはいけない、次の世代のために核のない平和な世界を作らなければならないと感じました。」

他の研修員も同じように研修記録に記していました。世界各国、どのような人も平和を望んでいます。私自ら、国際課の仕事をする立場ながら、個人レベルではこんなにも仲良くでき、その後も交流が続いているにも拘らず、国家間には何故問題ばかり起るのでしょうか。不思議ななりません。当時の私のメモ帳には「書いてありました。」

「長崎視察終了。楽しかった。自分の車に世界一か国の人に乗っていた。考えることが不思議だ。俺は海外経験が無いが、今やっていることが国際交流なのかなと思う。国際人としての感覚は互いのリスベクトだと思つた。」

長崎視察研修は1ヶ月の出来事でした。すでに研修員の帰国に向けての手続きに入っています。今度は彼らを送り返すために、事務手続きが必要になってきます。これも一手間ですが、研修員の呼び寄せには大したことはありません。勇々とする事務手続きに、何か淋しさを感ずる津田でした。(つづ)

